

愚人問五蘊金

2132
53

東京大学図書印



2132
53

田中一人借金

田中一人

越吉

四

本尹

中

序

郷食庭文庫

男子傾城もど先くびくす七の以
まろふん
 少き。孫と毒の書約もき。いふふと
めあき
 ら拾らるる海どま入る事け
そし
 中をい底の月あもはるる
のち
 鷗即知るはる。細腰よ仕人
い
さ
あ
は
ま

く報し。禮ハ雲の内活はまひ知途
たまひ葉ト。葉そこら團の書ル目と
おど候の。射そこら法答のち家と
心得。佛ハ書の名系と思ひ。あはり
り。こら。法切以貴し。救ハ生
まふ。尔。子。際。知。身。也。六。蔵。の。内。一。つ。と

志。只。行。法。し。月。知。知。れ。た。
印。が。大。ら。ま。を。深。川。尔。之。年。吉。
系。し。こ。ら。也。新。年。之。年。四。季
乃。も。あ。い。む。の。尔。知。め。る。世。の。後
世。の。思。ひ。も。無。限。に。兵。糧。出。し。様。の。情
と。む。形。し。く。妓。奴。尔。後。知。る。也。れ。れ。バ

西澤の企を止す。今、あはれ

丸め、枕を。きよのこ、紙中に有。

留す我よ、於て。浮め、雲のうら

御清く、ハ見せし。清らぬ、世

を、心ニ、おとて。心、自、松を、と

取つ。ち、ち、家、と、よ、ま、ふ、け

ま、ま、の、心、を、お、め、め、ハ、人、

君、人、移、る、海、の、信、全、知、と。仕、事、ハ

子、舟、ヲ、拂、ひ、の、尻、拭、り、も、ら、の、母

是、を、恐、り、な、し。是、を、世、の、中

か、し、め。正、月、年、も、

ち、ち、ち、ち、

かおらごの麻のぬぐりしやう

三島ぬぐり又紙舞のきり

玉明平一三

卯一子ぬる春

世集山人帰楊屯



吾人難得此種佛金

後^{こゝろ}毎^{ごと}實^{じつ}のぬぐり我^{われ}けし^{けし}りあるをい

た^たまの^{たま}舞^まりぬぐりしけしめりて

我^{われ}も^も後^ご知^ちりし^しりぬぐり人^{ひと}も^も舞^まり

世^よの中^{なか}も^も角^{かく}印^{いん}なく^く言^{こと}ひ^ひ西^{せい}も^も世^よも

付^つ合^あり^りし^し成^{なり}り^り後^ごな^なり^り又^{また}の^の世^よも

舞^まり^り世^よも^も舞^まり^り世^よも^も舞^まり^り

まらひやく板のぬえのうらむらん
 いぬやう中らう流く是はま世俗のらめ
 遠くお來の代のまむりよ是傾城と
 いふ所をその魂をそがし父母よ若守
 をかろ身まよは医を病くあめすしは
 多し其の中は世よをあらうてまなく
 是れぬてもたなくあめらうとまわ

げんのおろゆるまはよむらう目と道り
 庵んてあまいふある老どとそらあをんすふ
 少乃ま乃大先生四方の赤良藤千菅江
 書樂居橋は是人男今日あめらりく
 後が国はま文乃地内は晴夫十日の大角力
 かんれれははまの活きかん是も小江を
 乃後身あま親は持さうき小角力家解

まはれ御願の書もせうと云ふ事ある御願の
着附ハ夫おもむく打出の御願を来すと
出づる佛御願の御願をまじりて大入の
うもがたぐやとけりかよみか作若付
男ハッ西よまがの河中相後よおかひぬ
赤良 角力と勢りろめちのにおたろが踏合
ゆりていさる事ハ後ゆんご虫歯のおまひ

よめりてころい **菱** びをくおひ付る御願が
西でともめりて舞の下のまんまうと出せうとや
後ハ御様子 **ゆ** 人乃西よめりて版とかすりの
と考へ後とと先生をばまてハ出下れぬ
なりてとかがと結りこのおえんは御願をえ
と出るの **菱** とくといくくいあ仲丁の
まはれ御願の娘ハおきまよめりて出る紙よ

雲は程好しとよおの地は海橋の娘人も皆
 押ひおられぬ。海はるるを子仲しひくと尾花
 屋うらひは終そち老きし之に飛来る友た土橋を
 実む。一とは相後いつの事未ハテ屋がみるを海橋よ
 い望海がなれ。孔子き顔濁都やおんそ肉り。
 飛ひまきおられぬ。里乃今まとあつ海前
 がまきすそらつとまは海まらうなむい。

ことらよわぶは。赤良がつかう糸巻ひ福へ。
 雲 海橋のやうあう。なれおろい。又其
 とみ竹屋の深の江なぞ。あまよのり者ハ。大
 はんきの物き。あせ。改よし。何でいがるも。
 きこじをな。あ。出さる。い。糸巻ひ。ハ。い。よ
 仲丁の松屋へ入。娘きよ。あ。い。お。あ。つ。り。く。海橋
 さん。あ。え。し。さん。角力。が。打。出す。と。お。お。く。ま。ん。と。

飛中ひうちゅうななりり見みをを一いかかにに付つけけぬぬ久くササととああるる

ととああののどどががままるるやや一い返かへ見みをを一いかかにに付つけけぬぬ久くササととああるる

明あきらくくいいららるるききああわわるるいいやや シヤ。と。い。ま。い。く。見。を。一。か。に。付。け。ぬ。久。サ。と。あ。る。と。裏。の。ち。え。へ。け。共。え。は。と。

葉はををのの **共** と。あ。の。こ。と。と。あ。の。こ。と。 **見** 葉。の。ま。と。こ。と。

ととんんぶぶいいるる葉はのの花はなのの色いろのの丘おかのの新あらた着きののこころろととああるる

ららんんををああんんををああすす **海** い。の。い。ん。で。あ。ま。い。い。と。こ。と。と。こ。と。 葉はをを一いかかにに付つけけぬぬ久くササととああるる

乃のみちちるる葉はののびび乃のみちちすすををこことと見みままんん叶はきき

事ことふふささくくわわららるる一いとととと戦せん場ばふふああわわるるキキ一いとと

ああううああいいのの所ところなり **葎** やう。は。い。吸。め。の。が。出。る。た。ま

ららののせせ と。い。ま。い。く。吸。め。の。が。出。る。た。ま。と。と。あ。の。こ。と。 **娘** 行

行ゆはは改かめめをを入いれれててああいいののくくととああるる十じゅうささんのの葉は

ををああんんのの葉はををああいいののくくととああるる **海** を。入。す。と。と。あ。の。こ。と。

五 多。少。の。よ。う。と。あ。の。こ。と。と。あ。の。こ。と。 **三** 傷。の。り。と。あ。の。こ。と。 叶はきき

いい世よ市いちのの葉はををああいいののくくととああるる一いとと

出格で娘をーて病む。おつうとおつうとおつうが
 ようらふ **行** づねとよふこせせせ。おつうはつとあや
 女 まきくおと **由** コシ、ヤーやととドめううに成
ぬ格いよひうけ かありーがんばくう。馬ーいんまにをまきせて
 おつうがけくあえんせ。 **行** おつうよえん
 乃おつうハカうやーやう。せんやとーやう。 **行**
 見 **赤** コいぬ格ふ。いやあのおつうのといひなげー

けい格もあつうとて。おつうはあのおつう **行** んよ
 いんてあつうとて。今うはあつうとおつうと
 せいせいせいせいせいせい。あつうとて。乃
 ンおつういんよあつういぬま格ふ。 **行** ちん又おつう
 よちんて。ニそあつうをかきとて。なうう。人を入らう。
 コあつうとて。あつうのいぬま格ふ。 **行** 承知
 今 **行** いんてあつうのいぬま格ふ。あつうとて。

又は昔を仕つて有りき^し^た 女の美しきおのづ
 かたります。 五 六
 まらしむ有りては^は 世何れも初^は
^よ 五 初^は 五
 まげし^は 五 やが^は 五
^は 五 五 五 五 五
 海^は 五 五

まどい^は 五 五
^は 五 五 ^は 五 五 五 五
 出^は 五 五
 カ^は 五 五 ^は 五 五 五
^は 五 五 ^は 五 五 五 五
^は 五 五 ^は 五 五 五
 お^は 五 五 ^は 五 五 五

もん安んあふ野々海まをうらうらあま
一多ふ川向ひ乃ま安。中くあもあめり
おまを合兵すれば。魚んを龍便乃びく。志の
すきふゆでと。めらひらぬる世乃中。すけ
正之遊者名がまあ海客。作八。其あつてむとらうの赤
ハサキまのハサキ。正樂ハサキ
かり海客作八。今うら角カのおううらうらうらうら
う。うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

たをけりく。土俵乃海まく。のんくま
あをうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
中くあもあめり。うらうらうらうらうらうらうらうらうら
仕まひむらわく。すまをそとよくまを
さうら。角カあぞ。見お事さうとをばく。ま
何中うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
太名らの安んあふ野々海まをうらうらあま
せすの。おまをうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ハサキまのハサキ。正樂ハサキ

世宗
なり。[家]けいんかむさうきやうと。りふてけり
自媛とぬき中と。さうらちが奉とやうくと海を
まぐにうんちうらうに後^{せん}の^ご。モ。母ま
えんちの身ぬるふにぬてあをからことと
見ゆてく^とあふふ^と有^と。か^とけ^とく^とあ^とふ^とけ^と内^と伴^とハも
三法を也。うんち三しくと母定りのうこか
小冊子、うんち八巻を伴ハ赤良をこく
多^とう^との^と。天^{てん}下^げよ^よあ^ある^る所^{ところ}方^{かた}。今^{いま}楠^{すなはち}が^たた
こ

まをりがけんやのねがきふ人さ伴^{とも}は又
かひくお目よりせり。孫^{まご}つとくおりたまえとら。
けいんかむさうきやうと。りふてけり
母のまをりやうと。孫^{まご}ひますと。先^{せん}の^ごハ
ぬらうとまをりの方なるのし徳と。六のん
まをりやうと。りふてけり
弟^{てい}の^ごうと。りふてけり。通^とひ^とい^と世^よよ^とあ^とる

晦月を仰つて。さうしくく。海ふらき。守る人
と。まふらうぬ。國へあを。川や。葉を。いり。やう。うり。え。ま。ま。の
ざん。ち。あ。い。共。火。さ。ら。の。火。を。火。へ。い。り。ま。た。が。し。

廿書三 づの。あ。ち。し。い。あ。と。ゆ。ひ。た。れ。し。と。ま。う。
あ。さ。を。め。り。く。と。ゆ。し。で。あ。だ。こ。を。魚。と。い。く。
さ。何。く。と。い。ふ。く。ま。り。ま。あ。の。者。生。産。あ。つ。ゆ。ま。ま。
あ。さ。の。り。し。ま。の。ご。く。と。い。ふ。し。く。よ。
ま。ま。を。い。や。ま。せ。る。を。お。府。ふ。い。り。り。

懸子一屏風の中

華。ら。ら。ふ。う。き。物。の。よ。の。有。く。床。入。り。も。れ。ぶ。ふ。
た。を。を。春。く。の。今。い。り。の。あ。の。紙。を。か。た。が。る。屏。風。を。
あ。ま。ま。い。り。り。懸。子。一。屏。風。の。中。に。さ。ま。み。ら。り。
く。り。と。し。や。あ。が。た。を。ま。ら。や。せん。今。と。か。ら。く。
す。む。の。ま。ら。後。の。と。水。切。ま。の。井。た。り。や。あ。り。
め。り。又。り。り。が。是。や。と。よ。ゆ。せ。る。ん。い。ま。い。が。
よ。の。あ。ま。れ。後。の。と。あ。げ。ん。ま。あ。り。懸。子。か。ら。り。
る。り。と。い。ふ。か。ら。ら。れ。あ。り。の。と。室。に。ま。ぎ。い。り。り。

乃喜(賴)をうけつけやうなるをいひて
 ておねがひかねどもかどちもあつらひて書
 りつゝこれら。ふらき乃あれ移るの有り
 せしむ移りぬ。因(大)おれぬよいつたまる
 りあつた。わつとよやせう
と礎をこし針をう
よゆらうよよ二十
 思つたやよれいとあひらよらうびききけんの
 きた末のすままでかんぐと動一正おせと八礎と
針をこ
たを 二礎をこし針も。持つて八礎の中あつた

かんふちるはのうとあれはゆよとあまうそ
 出おれよかをねおれ六針を三本糸で巻
 ぬらうすぐおれんとせしゆを五三十八おき
 足する。ゆめあつたるわつとこれる糸ら
 出(大)かたせきまうよわおれぬるせし
 一三やとよあつたむらな事と一思つたが
 てあつた手の鬼十とよつた糸一はま
 そのかたよりあつたおきとわらう。星は月の空

概をいへばなやろげとぞししくはまゝ
 まはれぬ。とらひのいとまは二朝今の市の時
 ありきまはらむつらふ分の時をこそとせむは
 招きいませりしとまはれぬ。あつてはあつて
 かりしと衆牛のけ合すのうたはしりか
 かねははむるのよまはれしとまはれぬ。

田かなむとくしとまはれぬ。けさる
 とまはれぬ。とまはれぬ。けさる
 けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

けさる。けさる。けさる。けさる。

たまは程の有。きりぬつて空より「や
 かるほ。よなかなか。あをむく。か。い。ぬ
 らがするかな。彫りのさ。きとあ。のち。ら。い
 うたでも。さ。い。も。ほく。や。み。酒の舟
 とけ。い。が。く。ま。あ。の。さ。け。と。き。う。ま。う。う
 く。ま。く。い。は。い。の。う。あ。ま。よ。ま。う。よ。い
 たら。す。う。福。い。ま。後。第。い。は。う。う。ん。が。い

来ひつたのむ

雲楽原凡の舟

ついのもうが
そばへ飛りらんさぶのは後モ雲モあうえん
 とあうさらんき望きぎくあなままとらいるせん
 あいねまうもうちらうあいままおせんあめをい
 つあめのうがあうんつならいまうまうまうま
 ますいなな雲をまうたやあまこやせん一つ洗そて

身せきくえ縁つおめとく愛徳いよめをつく
そくいのし縁のめらなつらまひの志れそくな
りそくせま縁雲はらひまひの
ゆちおれいらくおめの方くおとさ
きめくつをまのんごそく雲モくおつ
さくちひつうえんちちよると身しおひ
かづつまうのふぬくそくそくドヤ縁つ

ころがあとくせくくねば縁さくま
のあめきぞくさく向ふにニまおぞくま
ゆちおが合息が縁おれくまきくま
肉くさくしとくはまひくろくまきく
てまきくゆりくそくそくあく風地のかく
見くやうおやゆりやせん今くの又人の一産ハ
南隣み行さくやうがまめれば世のめく女

房に抄りくく下婦まき事なぬとの見お
よ出に抄りとあるかのかひ奴やつて風とよて所斗。
なんどあつとあふあまき法くう事ふしね
乃やき捨と古ひ地はといやや福がまをえ
といふ子なりてても春の末おやがりやいひ
中夏が入まば竹の子もくぬらぬらぬらき
世を後り。東中房乃共氏おらといひうち

かゝ算が毒ふ死海が物ぞう半す。半合算
赤ういふ。あふ事し空く花やま室中の月
やをせんべいまんとよの道茶乃るあ花のむら種。是場所
くうのちあがれが下二のさるあゆま。厥
知し進しとさうてとがし。後や金のすくまひハ
あつちのあての借金組かりおと見ぎうらま
乃ま。内おやりのた入る物ハ山くもくも

あぶ老のまの弁おゆでとがり。是とき
あふのきれふあふ。□ ハ二の区りし出来ぬ
中に先をくられぬ
たぐの事うとくむ。むとや。在るせえま
あやまう中。あまふ付ちやば事とあめ
のむか。洗^うま。く。あつち。は。後。あ。若
く。そ。う。あ。の。子。あ。の。あ。う。あ。す。と。や。え。
ま。あ。く。あ。を。三。は。あ。の。と。ま。の。あ。あ。

ハ二

ても極かろ。うまきりえ。あえま。一。二。
あうあめ。都とま。く。あ。ろ。と。す。あ。あ。
あ。れ。が。あ。の。ち。し。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

夏のいふぬわれのやうに作志のたのむれ
 ちりてくたせ下つすいづんわくち夜
 いらあはれよりさざうどちあつくま
 とちかくあつくたせははまの海あ
 さでふ合長ぐゆく種種節におりくといり
 いらきんあふ種すあといれぬと夜
 づい寒い

屏櫓扇風の中

おこよの櫓は海櫓のゆきり
よまふりかるとやじをつくひるま
 屏櫓と櫓あつくまはくまらきざん
 いかにあまきんのかくやあの中海
 今も同じかうはすいりかたかん中
 きたうもてあまの正拍う一舞の事を
 古屏やなんどくたあすかやう海の中

なほ福のせんくあひちよあつるまをきます
 の付はせんやりのきあひがせんあつる
 くと福のせんくあつるまをきます
 かあひのたまのが福のあひひきます
 福のあひがくまを肉でもきます
 けし後じやあひよあつるまをきます
 ぬんよの福のせんくあつるまをきます

福の

福のあひがくまを肉でもきます
 けし後じやあひよあつるまをきます
 ぬんよの福のせんくあつるまをきます
 福のあひがくまを肉でもきます
 けし後じやあひよあつるまをきます
 ぬんよの福のせんくあつるまをきます

又春のきりけの雛のつらつらきまのしつこき
 春のきりけの雛のつらつらきまのしつこき
 とかき〜ぬを身ごころのかんきんを物ごりお
 よら来り〜ら白ひたきひまかことせんとあひり
 又らきけみをなせ〜らあ〜ら小粒云のすし
 何で〜粒云の〜成かん〜ま〜し〜らあ〜らよ
 珠取あゆみ乃け〜はよぬく有ら〜らあ

とゆき〜ら〜れ〜何うは〜ら〜ら〜ら
 又〜らあゆみよくきま〜ら〜ら〜ら
 いよゆ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
いよゆ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 くれハ

ホク

物さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 物さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 と後乃陶見〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 事さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 もさ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 上ふ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

つまのいしきしけりといひける海づる
こしかつちかひぬらう。いしあふもをりて固て
又あらおめをするそのを。あつちのかぬりぬ
事と自のまを非のゆゆが良と身きり 日也
海橋さん。その馬のちのう。たりのまん知
まの事よ。母ののもぐりま。ばよ海橋く
書いかりのものと。あつちのう。またりて

あふ

海はまの程く。と。目か。り。を。ち。く。甚
と能く世かを。あつちのう。や。程く。之
か。中。の。あ。つ。ち。の。う。是。中。海。橋。さん
海橋さん。き。な。り。の。日。け。合。あ。く。遠
さ。り。友。か。く。者。ん。と。い。う。の。合。意。の。う。か。れ。た
是。あ。つ。ち。の。あ。い。そ。つ。し。を。い。う。か。 海 持。い。い。と
し。あ。つ。ち。の。後。が。き。り。と。い。う。其。状。を。い。う
は。う。と。い。う。能。く。は。り。と。い。う。と。見。え。る。あ。つ。ち

うらみのあり物をいせとしかる時。いせとて。その
づいりてなり。よをもやせん。も。素や素あ
其うておのの儀をよんぐ。正月ときまむ
志まひつら。素屋の娘ふす。なれでし素
まひつら。見ろ。そのほろでほろ。残る。かた
素あ。わら。もの。ど。素。ふ。か。う。よ。あ。う。お
とけ。この。い。お。い。お。き。よ。金。を。つ。く。せ

あ。と。あ。う。う。ま。い。ら。あ。事。と。ま。う。う。う。
と。あ。ん。よ。き。よ。の。り。ひ。も。ん。ど。と。う。と。い。は。つ。あ。い。よ。
る。あ。あ。い。付。あ。う。あ。き。を。れ。く。い。ら。あ。事。
の。甘。り。あ。う。保。ま。あ。う。よ。保。い。ら。と。な。く。ま。う。
今。づ。く。て。も。な。く。な。ぐ。さ。い。に。ま。う。この。さ。あ。
志。ま。う。事。よ。も。あ。あ。ら。の。鏡。の。あ。う。あ。い。よ。
あ。う。あ。い。う。き。ん。と。う。と。事。ハ。出。ま。あ。う。

ちづよ。去年の仲間。月見など。六。らんま。いつぐく
 へんぼく。又。東の。きんせいの。きんせいの。いよ
 海川の。ゆき。いんぐ。いんぐ。きんせいの
 所の。の。を。ら。い。ぬ。の。が。金。は。く。て。も。あ。を
 ても。なく。海。橋。きん。せいの。く。あ。ぶ。の。きん
 せん。一。さん。と。い。よ。及。男。は。せん。と。う。く。見。る

海橋がかんやの
 だうりう。さ。う。く。ろ。く。ま。い。と。海。コレ。は。よ。ま。の。ち
 を。向。く。は。う。と。を。せ。ろ。人。あ。と。く。い。ぬ。ぬ。ま
 は。ま。し。が。き。は。さん。ま。り。千。の。の。ご。め。を
 くら。ま。ぶ。ぐ。も。て。あ。ま。は。と。う。い。ん。の。き。あ。う。ふ
 と。六。お。八。ち。ん。ど。ま。ま。と。よ。ま。玉。子の。四。角。と。ゆ。い
 乃。ま。ま。と。い。ひ。い。と。い。ふ。が。道。丁。の。八。玉。子。と。や。ま
 かな。よ。か。い。く。四。角。よ。ち。ら。が。ゆ。の。海。ハ

まご出来祓。是ごとくおひつる。去年
逐よりなつて時。新はしもはなはし。海うもうもうも。
おまが内うちでも祓はらうまよ。何なにのかのことやはま
く。お件こともすはきよはなはくまるまんまきまを
おままへまくま事こともまらまくまがまつまんまけまくまの
事ことかまらまバまアまウまウまちまぐまらまあまとまふまじ
あまとまぐまゆまれまバまそまぐまあまうまよま。今いまあましまちまあまよ

大仕事とかんを付く。はまめく。やむなは方
とぞろまごま今いまかんまくまくまらま時ときハま知しままうま
ゆまくまあまるまんまかまくま。あまらまるましまいまはまはまくまで。
おままあま点てんとまうまけませまくま。大だいにまぐまぞまいまい
と。はまうまままらまれまこまもまきまあまらまんまごまるま大だいめ
おまいまきまめまちまよま不ふいまちまめまけまぬまきまこまままはまの
ゆまらまりまとま結むす。あまいましまぐま、ままらまふま。けまみま人ひと男おとこのま中

去人の物持を。目あこりうあしをこりて
今まぐよくとかきし。りよの悪人乃
傍令らむ。あを賞ふらうこしや後へけ
あくむらに江戸中よ。うとるおありよお
ちか^ちとけし。ちあうのうげ^けうこる。
形りのおきやむ。あうのらいの。今を志あ
てまふあしよ。款^{くさ}とさうよあしとまぐのど。

うぬが屋。あのみむせくしを考
くうを。まうあむんよあむんこつあ
去のぎの救でしあすのう。今やうハ
とら石矢でもみてもあむ。ふつ
かふあうれうが。後持さんぐうひさ。
金のいりやとあうてかふ。け仲丁のあ
ぬきめ。あうすこりのかりを切。あざい

するの折りかへ。客がせむぬとよとまら
 まるい。あつこうくろふが地をんらあらふが。又
 分づとうぢくみ人々後(後)ふんとうなま
 よかたが付くと。しやうぢまひのまひのむし
 火よ。うなまきまきま。あつとまひのまひの
 い。あつとまひのまひのまひのまひの
 せつ花。今でもとまひのまひのまひの
 三十一

ともどもおこよ。あつとまひのまひの
 おおとまひのまひのまひのまひの
 せつ花。今でもとまひのまひのまひの
 三十一

大ひやさささ
 海標

海標
 海標
 海標

海標
 海標
 海標

羨とくは海とくの大いさばがまへに
 何とドや後か。 **まき** 抄りしやがたれれど
 腹がきりいへ。 **ゆ** 抄めらるゆドや後へ **まき**
 抄りよえんの羨り。 **ゆ** せんみめのさ とつ羨
さやの書
 途か **長吉** びん 抄りてごらりませ **まき**
 長吉とく **明** 抄りて **まき** 抄りて **まき**
 海抄りて **ゆ** 抄りて **まき** 抄りて **まき**

羨とくは海とくの大いさばがまへに
ゆ 抄りて **まき** 抄りて **まき** 抄りて **まき**
とつ羨
さやの書
 途か **長吉** びん 抄りてごらりませ **まき**
 長吉とく **明** 抄りて **まき** 抄りて **まき**
 海抄りて **ゆ** 抄りて **まき** 抄りて **まき**

羨とくは海とくの大いさばがまへに
 何とドや後か。 **まき** 抄りしやがたれれど
 腹がきりいへ。 **ゆ** 抄めらるゆドや後へ **まき**
 抄りよえんの羨り。 **ゆ** せんみめのさ とつ羨
さやの書
 途か **長吉** びん 抄りてごらりませ **まき**
 長吉とく **明** 抄りて **まき** 抄りて **まき**
 海抄りて **ゆ** 抄りて **まき** 抄りて **まき**

后序

大門の伏執あせせし方かたの終しゆう六部ろくぶ遣せん亮りやう

面おもて紙しをを敷敷六部ろくぶ下かにに杜撰とせんめく。

一いっ多た慮りよハハ公こう智ち惠ゑ乃の母ぼハハ二に之しの

我われ附つ帰かへ揚やう揚やう者もの一いっ又また結むするる生なま肌あ

三十三

乃ち智ち惠ゑととゆゆふふかか乃の辯べん者もの也なり。東とう海かい州しゅう

此こゝ人ひと用もちのの大だい一いつ望ぼう。夜よハハ何なに時ときぞぞ引ひ引ひ

忠ちゆう松しょう子しのの末すえももセセリリ形かたちくく。海かい橋きょうのの

ててここどど大だいじじやや。光ひかりもも末すえもも象さう深しんと

文ぶん叙じゆ題だい十じゆ載さい云い。いい志しやや。後ごへ

志や^ア移^リ下^リや^ア移^リ上^リの^も。市^ノ福^ノ利^ノ
 取^ラぐ^レも^カや^カ利^ノ海^ノの^も満^チと^レ儲^リ溜^ル
 運^ニ業^シ山^ノ人^ノ積^ミる^もの^もら^レ表^シ是^レを。
 君^ノ人^ノ積^ミる^も積^ミる^も積^ミる^もと^レ懸^レく。
 其^ノ後^ノ所^ニ。是^レも^レ化^ス生^ルの^も處^ニ也^{ナリ}。
 三十四

筆^ノが^レ深^クの^も井^ノが^レ。園^ノ尔^ノ採^ル事^ヲ
 志^スら^レる^也。

卯^ノ井^ノに^レて^レく
 かく^レ入^ル女^ノ春

志^ス水^ノ裡^ニ町^ノ也

快訊

投扇興托篇 後篇

全

甫乃文集

全

甲辰新話

全

怪并 業活乃甲辰新話

全

碎丁甲圍

全

多佳余有碎

全

遊婦里令流

全

大通秘密論

全

涼川拜見

全

長保四季物語

全

涼川新話

全

賣花新話

全

居談厚全

全

世說新話系

全

通人枕云紫

全

太平樂卷物

全

風夕露一代記 中本 全

いろはの取扱 中本 全

夢合延壽大成 全

山崎 大山参詣記 全

狂舟室合記 全

狂舟二紫州 全

落栗菴狂舟集全 全

男女不勝方 全

御江戸鋳銀 中本 全

北洲異林之帖 全

江戸須覧花 折本

江戸物見圖 折本

五字世話文珠 全

五字小気かお抄 全

江戸橋四日市

上総屋利兵衛板

